

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3101750号
(U3101750)

(45) 発行日 平成16年6月17日(2004.6.17)

(24) 登録日 平成16年3月3日(2004.3.3)

(51) Int.Cl.⁷

A61B 1/00

F I

A61B 1/00 300B

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2003-272558 (U2003-272558)

(22) 出願日 平成15年11月18日(2003.11.18)

(73) 実用新案権者 501414445

太平洋医材股▲ふん▼有限公司

台湾 台北市士林区忠誠路一段99号5楼

(74) 代理人 100107962

弁理士 入交 孝雄

(72) 考案者 李 元勇

台湾 桃園県桃園市新埔里25隣天祥五街

23号7F-1

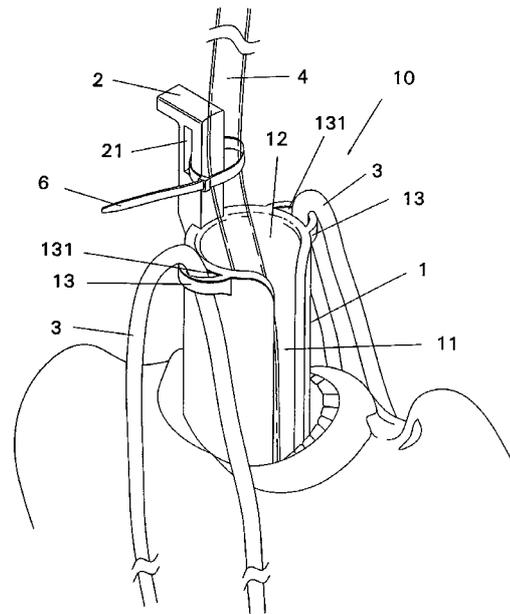
(54) 【考案の名称】内視鏡用口当て構造

(57) 【要約】

【課題】部品が少なく、設置が速く、消耗品を少なくし、且つ実用的な内視鏡用口当て構造を提供する。

【解決手段】内視鏡用口当て構造は、管体1及び固定ハンドル2から構成される。そのうち、管体は円筒形で、その一側面には開口11が形成され、内には上下に貫通した差込部12が成形される。また、その一端には固定ハンドルが接続され、この固定ハンドル側面適所には貫通したバインド紐孔21が穿設される。固定ハンドルと同じ側の管体両側適所には耳部13が一組成形され、その耳部適所にはそれぞれ穿孔131が穿設され、そこに頭部固定紐6が通される。

【選択図】図3



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

管体と固定ハンドルから構成された内視鏡用口当て構造において、円筒形状で、その一側面には開口が成形され、内側上下には差込部が成形され、そこに導入管が挿し込まれるもので、一端には固定ハンドルが接続される管体と、一側面適所に貫通したバインド紐孔が穿設される固定ハンドルから構成され、固定ハンドルと同じ側端部の管体両側適所に突出した一組の耳部が成形され、その耳部の適所にはそれぞれ貫通した穿孔が穿設され、そこに頭部固定紐を通すことを特徴とする内視鏡用口当て構造。

【請求項 2】

前記穿孔は、適する箇所突出した紐当て凹部が成形されることを特徴とする請求項 1 記載の内視鏡用口当て構造。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、内視鏡用口当て構造に関するもので、特に固定構造に関する口当てである。

【背景技術】**【0002】**

公知の口当て 50 構造は、図 1 に示すとおり、固定ハンドル 51、バインド紐孔 52 及び外管 53 から構成される。そのうち、この外管 53 中間には貫通した筒孔 531 が成形され、そこに導入管（図未提示）が挿し込まれる。この固定ハンドル 51 は、外管 53 一端に接続し、固定ハンドル 51 上にはバインド紐孔 52 が穿設される。このバインド紐孔 53 にバインド紐を通し、導入管を固定ハンドル 51 に固定する。

【0003】

公知の口当て 50 を使用する時、使用者の口に外管 53 を入れ、テープを貼って外管 53 を顔に固定し、口当て 50 が外れないようにする。そして外管 53 上端から導入管を入れ、バインド紐孔 52 で固定する。

【0004】

上述の口当て外管構造は、テープで固定することによる効果はある。しかし、テープを直接人の皮膚に貼って固定するため、長時間使用すると、皮膚表面の通気が悪くなり、不快感を感じるようになる。また、外れやすくもなり、危険度が高くなる。更にテープは常に交換しなければならないため、材料コストも上がる。

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】****【0005】**

解決しようとする問題点は、使用者が長時間使用によって、不快感を感じ、且つ外れやすくなるために、危険度が高くなる点である。また、常に交換の必要があるため、材料コストも上がる点である。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

本考案は、部品が少なく、設置が速く、消耗品を少なくし、且つ実用的な内視鏡用口当て構造を提案することを最も主要な特徴とする。

【考案の効果】**【0007】**

本考案の内視鏡用口当て構造は、下述の利点がある。

本考案の耳部構造によって、口当てに有効な固定効果を具え、且つ簡便で、公知のテープを貼り付ける不便さ及び不快感が解決する。

本考案の耳部構造によって、口当ての固定効果が向上し、使用時の安全性も高まる。

本考案の耳部の構造によって、頭部固定紐が再利用でき、材料コストを下げる。

【考案を実施するための最良の形態】

10

20

30

40

50

【 0 0 0 8 】

図 2、図 3 に示すとおり、本考案の口当て 1 0 は、管体 1 及び固定ハンドル 2 から構成される。この管体 1 は円筒形で、その一側面には開口 1 1 が形成され、上端には差込部 1 2 が成形される。その一端には固定ハンドル 2 が接続し、その固定ハンドル 2 一側面の適する箇所にバインド紐孔 2 1 が穿設される。このバインド紐孔 2 1 にバインド紐 6 を通して使用する。それによって導入管 4 を固定ハンドル 2 上に固定する。また、固定ハンドル 2 と同じ側の管体 1 両側適所に突出した耳部 1 3 が成形される。この耳部 1 3 の適する箇所にはそれぞれ貫通した穿孔 1 3 1 が穿設され、そこに頭部固定紐 3 を通す。この穿孔 1 3 1 の適所には突出した紐当て凹部 1 3 2 が成形され、頭部固定紐 3 で口当て 1 0 を止めた時、上述の耳部 1 3 の構造により、公知のテープによる固定方法から脱却し、固定がより安定し、安全性が高まる。

10

【 0 0 0 9 】

図 3 に示すのは、本考案の良好な実施例の一つで、使用時、先ず導入管 4 を口当て 1 0 の差込部 1 2 に差込み、バインド紐 6 を導入管 4 に巻き付け、バインド紐孔 2 1 に通す。導入管 4 は固定ハンドル 2 上に固定され、更にセットされた口当て 1 0 を使用者の口に合わせて管体 1 の下部を含ませる。続いて耳部 1 3 の穿孔 1 3 1 に頭部固定紐 3 を通し、後頭部で締めると、口当て 1 0 の固定が完成する。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 0 】

【 図 1 】 公知の内視鏡の口当て立体図である。

20

【 図 2 】 本考案の内視鏡の口当て立体図である。

【 図 3 】 本考案の内視鏡の口当て実施例図である。

【 符号の説明 】

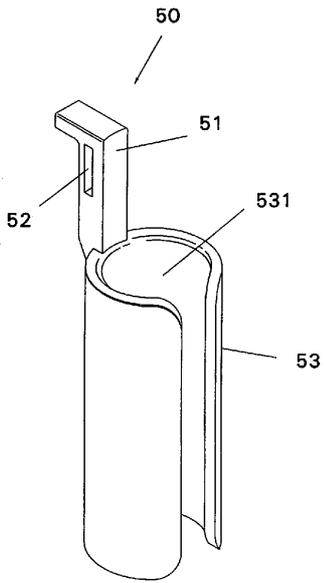
【 0 0 1 1 】

1	管体
1 0	口当て
1 1	開口
1 2	差込部
1 3	耳部
1 3 1	穿孔
1 3 2	紐当て凹部
2	固定ハンドル
2 1	バインド紐孔
3	頭部固定紐
4	導入管
5 0	口当て
5 1	固定ハンドル
5 2、2 1	バインド紐孔
5 3	外管
5 3 1	筒孔
6	バインド紐

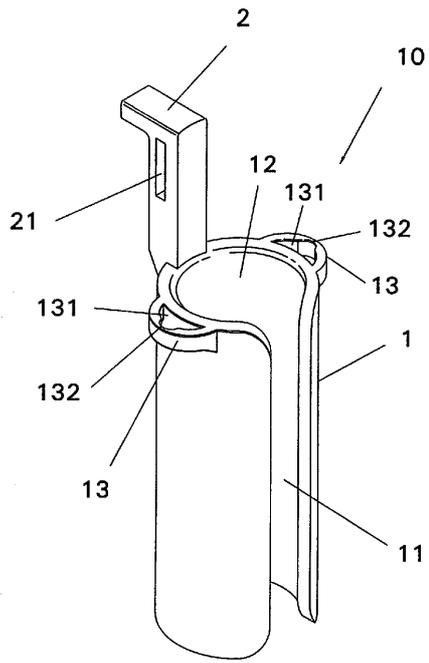
30

40

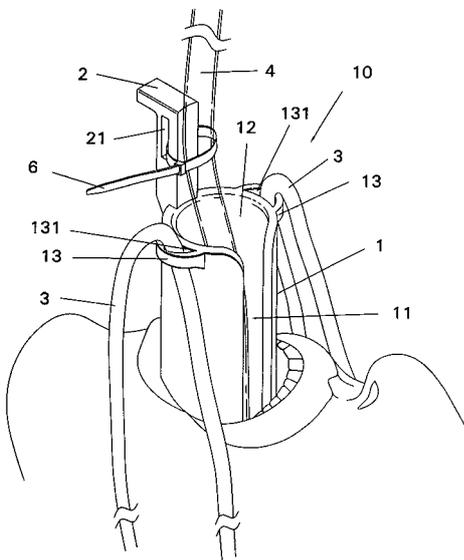
【 図 1 】



【 図 2 】



【 図 3 】



专利名称(译)	端部接头咬嘴结构		
公开(公告)号	JP3101750U	公开(公告)日	2004-06-17
申请号	JP2003272558U	申请日	2003-11-18
[标]申请(专利权)人(译)	太平洋医材裆糞便		
申请(专利权)人(译)	太平洋医材股▲ふん▼有限公司		
当前申请(专利权)人(译)	太平洋医材股▲ふん▼有限公司		
[标]发明人	李元勇		
发明人	李 元勇		
IPC分类号	A61B1/00		
FI分类号	A61B1/00.300.B		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

几部分，安装是快速，消耗品减少，以提供防止结构的实际内窥镜端口。用于内窥镜的吹嘴结构包括管状主体(1)和固定手柄(2)。其中，管状体是圆柱形的，并且在管状体的一个侧表面上形成开口11，并且在开口中模制垂直穿透的插入部分12。固定手柄的一端连接固定手柄，并且在固定手柄的一侧表面上的适当位置钻出穿透的绑扎线孔21。该管侧面放置在相同的一侧固定手柄耳13被设置成形，分别钻131的耳朵位置中钻，其特征在于，头固定带6穿过。

